

アルファ・ウイン 企業調査レポート

アイ・エス・ビー (9702 東証プライム)

発行日：2024年5月13日

アルファ・ウイン 調査部
<https://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ 第1四半期決算～業績好調、増収増益。会社想定を上回った模様。

<2024/12期・第1四半期（2024年1～3月、以下、Q1=1～3月）の実績>

・ 今期 Q1 の業績は、売上高 8,531 百万円（前年同期比=YOY:+2.0%）、営業利益 1,105 百万円（同+7.3%）、経常利益 1,132 百万円（同+8.6%）、当期純利益 760 百万円（同+31.1%）を計上した（図表 1）。前期 Q1 に続き創業以来、四半期単位では最高の業績（売上高・利益）を更新した（P2-図表 3、4）。（なお、本レポートでは、表記や計算過程において原則、単位未満を四捨五入するため、会社発表値、本文、図表において同一項目の数値や計算値に若干、差異が生じることがある。また、括弧内の△はマイナスを意味する。）

・ 好調な企業業績を背景に DX 化や、システム更新など最終顧客の IT 投資が活発で、ビジネスインダストリー、エンタープライズにおいて、受注が堅調に増加した。増収効果が諸コストの増加を吸収し、利益率が改善したため増益となった。

【計画に対する進捗率】

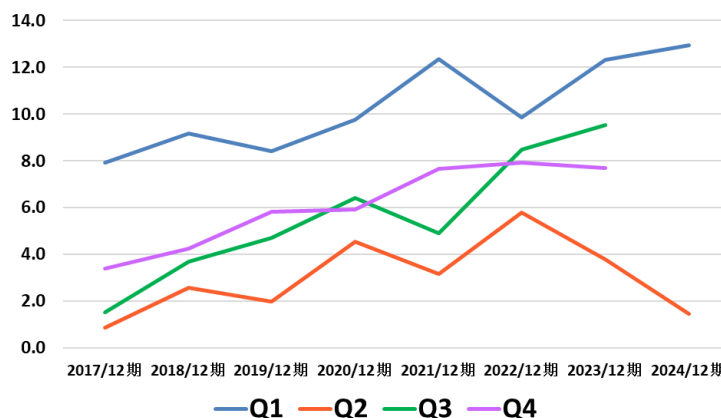
・ 同社が期初に発表（2024年2月14日）した通期計画に対する Q1 の進捗率は、売上高で 25.5%、営業利益では 47.6%、当期利益では 50.7%と高かった。Q1 決算の発表時に通期の業績予想を上方修正したが、新たな計画（詳細は後述、P4～5）に対しても、それぞれ 25.3%、44.7%、46.9%と高水準となる。因みに前年同期の進捗率は、それぞれ 25.8%、37.7%、39.3%であり、今期の利益の進捗率は前年同期を約 7%ポイント上回っている。

・ 同社による Q1 業績の計画は非公表であるが、上期についても業績予想を上方修正したことから、Q1 決算は社内計画値を上回り好調に推移したと推定される。

【図表 1】 今期・第1四半期業績の実績

（単位：百万円、%）	2023/12期Q1 （2023年1～3月）	2024/12期Q1 （2024年1～3月）	対前年 同期比
売上高	8,366	8,531	2.0%
粗利	2,206	2,293	4.0%
粗利益率	26.4%	26.9%	0.5%
販売管理費	1,176	1,188	1.0%
販管費率	14.1%	13.9%	-0.2%
営業利益	1,030	1,105	7.3%
営業利益率	12.3%	13.0%	0.7%
経常利益	1,042	1,132	8.6%
経常利益率	12.5%	13.3%	0.8%
当期利益	579	760	31.1%
当期利益率	6.9%	8.9%	2.0%

【図表 2】 四半期別・売上高営業利益率の推移（%）



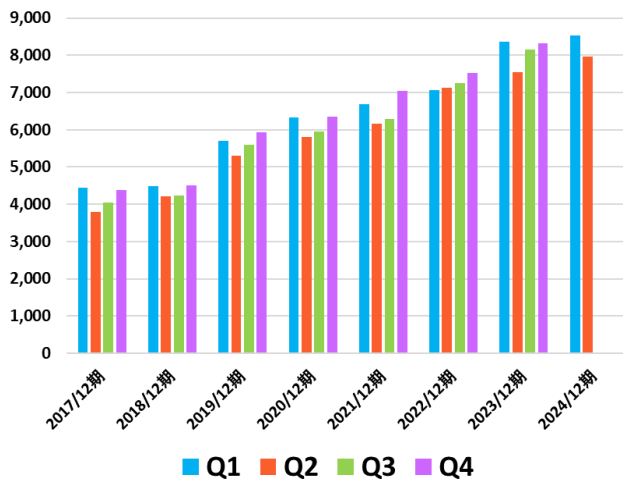
（出所）図表 1～4：決算短信・決算説明資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。2024/12 期 Q2 は、会社計画（上期・新計画-Q1 実績）。

ショートレポート

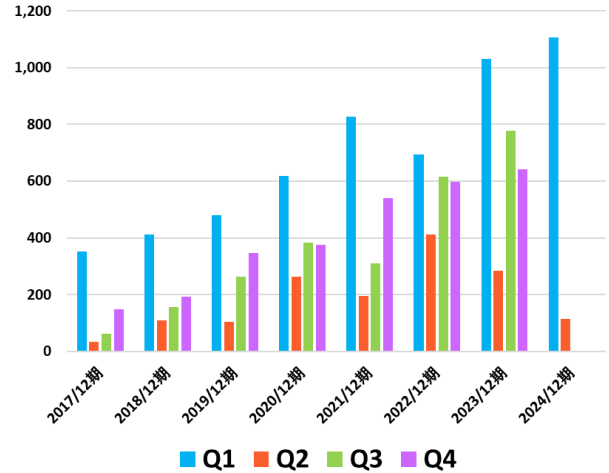
1/8

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

【図表3】四半期別・売上高の推移（百万円）



【図表4】四半期別・営業利益の推移（百万円）



【利益の動向】

- ・増収（YOY:+165百万円）効果と、粗利率が前期 Q1 の 26.4%から今期 Q1 には 26.9%へと 0.5%ポイント上昇したことにより、粗利額は 87 百万円（同+4.0%）増加した。販管費は 12 百万円（同+1.0%）の微増に留まり、販管費率は 14.1%から 13.9%に 0.2%ポイント改善した。この結果、営業利益率は 12.3%から 13.0%に 0.7%ポイント上昇し、前期比 75 百万円、7.3%の営業増益となった。
- ・調達コスト（外注費等）の上昇、広告宣伝などの営業活動の拡大、及び技術者の採用・育成など人事戦略に関わる費用の増加があったものの、情報サービスセグメントにおけるのれんの償却が終了したこともあり、コストの上昇は抑制された。
- ・営業外損益は、前期 Q1 の 13 百万円の黒字から今期 Q1 には 27 百万円の黒字へと約 14 百万円改善したが、主に受取保証金を営業外収益に計上したことによるものである。
- ・また、前期に特別損失として不正関連損失 108 百万円を計上したが、今期は発生せず当期利益は前期比 181 百万円、31.1%の増益となった。

<セグメント(連結)>

【決算短信での報告セグメント（売上高と利益）】

- ・報告セグメントは、情報サービス、セキュリティシステムの 2 事業で開示されている（P3-図表 5）。
- ・今期 Q1 の売上高構成比（外部顧客向け、以下同様）は、情報サービスが 83.4%（前年同期 81.3%）、セキュリティシステムが 16.6%（同 18.7%）、また、調整前のセグメント利益の構成比は、順に 70.0%、30.0%（同 62.8%、37.2%）と、情報サービスが売上高・利益の過半を占める。
- ・情報サービス事業の売上高は 7,113 百万円（YOY:+312 百万円、+4.6%）、セグメント利益は 767 百万円（同+141 百万円、+22.6%）と増収増益となった。Q1 の売上高利益率（=セグメント利益÷外部顧客への売上高、以下同様）は、高付加価値案件の獲得などにより、前期の 9.2%から今期には 10.8%へと大きく改善し、増収とともに増益につながった。
- ・一方、プロダクトにおいて部材の調達は改善したものの人手不足による工期の延長もあり、セキュリティシステム事業の売上高は 1,418 百万円（YOY:△147 百万円、△9.4%）、セグメント利益は 329 百万円（同:△42 百万円、△11.3%）と減収減益となった。

・製品の機能向上を目的とする開発投資の開始により、Q1 の売上高利益率は前期の 23.7%から今期には 23.2%へと、0.5%ポイントの低下となった。セキュリティシステムには、収益性の高いリカーリング製品も含まれており、同セグメントの利益率は情報サービスの 2 倍以上である。そのためセキュリティシステムの増減収が、全社の利益にも大きな影響を及ぼす可能性がある。

【 図表 5 】 報告セグメント別・四半期別業績の推移

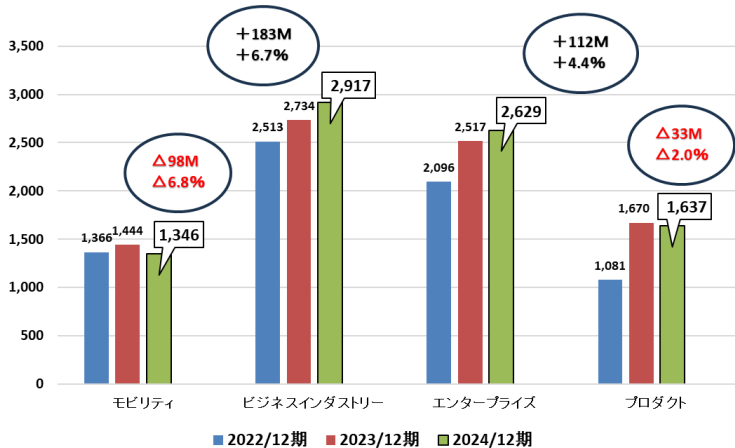
年度	情報サービス・四半期別売上高:百万円				情報サービス・四半期別セグメント利益:百万円				情報サービス・四半期別セグメント利益率:%			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
2017/12期	3,426	3,130	3,390	3,459	194	37	92	143	5.6	1.2	2.7	4.1
2018/12期	3,500	3,411	3,535	3,886	261	110	169	171	7.5	3.2	4.8	4.8
2019/12期	4,688	4,446	4,742	5,042	312	94	268	347	6.7	2.1	5.6	6.9
2020/12期	5,103	4,891	5,141	5,260	451	218	368	287	8.8	4.4	7.1	5.4
2021/12期	5,330	5,251	5,459	5,802	594	195	295	421	11.1	3.7	5.4	7.3
2022/12期	6,044	6,046	6,328	6,471	570	289	485	491	9.4	4.8	7.7	7.6
2023/12期	6,802	6,754	6,821	7,059	626	310	522	545	9.2	4.6	7.6	7.7
2024/13期	7,113				767				10.8			
前期比(金額・幅)	312				141				1.6			
前期増減率(%)	4.6%				22.6%							
年度	セキュリティシステム・四半期別売上高				セキュリティシステム・四半期別セグメント利益				セキュリティシステム・四半期別セグメント利益率			
単位:情報サービスと同じ	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
2017/12期	1,014	867	652	929	159	-5	-29	6	15.7	-0.7	-4.5	0.7
2018/12期	981	797	703	828	149	-9	-17	19	15.2	-1.1	-2.4	2.2
2019/12期	1,010	848	856	888	163	2	-6	-2	16.2	0.3	-0.7	-0.2
2020/12期	1,233	904	820	1,081	165	42	20	92	13.4	4.6	2.4	8.5
2021/12期	1,356	909	833	1,236	233	-4	8	118	17.2	-0.4	0.9	9.6
2022/12期	1,015	1,068	924	1,056	124	118	131	103	12.2	11.0	14.1	9.7
2023/12期	1,565	835	1,272	1,255	371	-42	247	86	23.7	-5.0	19.4	6.9
2024/13期	1,418				329				23.2			
前期比(金額・幅)	-147				-42				-0.5			
前期増減率(%)	-9.4%				-11.3%							

(出所) 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。

【事業分野別売上高】

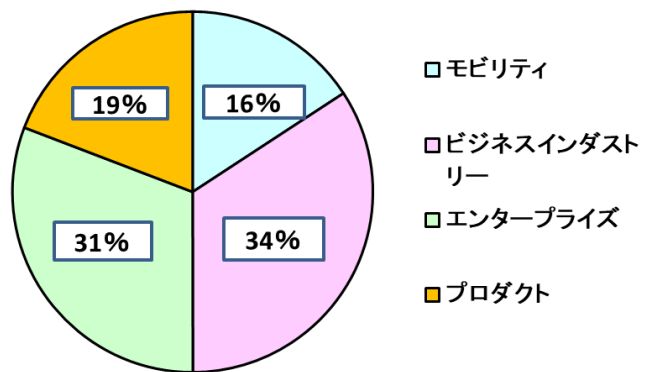
・事業分野は、モビリティ、ビジネスインダストリー、エンタープライズ、プロダクトの 4 つに区分されており、各分野の売上高は以下の通りである (図表 6、7、なお事業別利益は非公表)。

【 図表 6 】 事業分野別・今第 1 四半期売上高の推移



(出所) 図表 6~7: 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。(備考) 図表 6 の円内の数字は、前年同期比(M:百万円)

【 図表 7 】 事業分野別・今第 1 四半期売上高の構成比



・モビリティは、前期比 98 百万円、6.8%の減収となり (全体の純増収額に対する増収寄与率△60%、以下同様)、売上高 1,346 百万円を計上した (今期 Q1 の売上高構成比 16%、以下同様)。携帯端末・5G 関連・家電が縮小したため減収となったが、車載系が堅調でありほぼ想定通りであった。

・最大の事業分野であるビジネスインダストリーは (売上高構成比 34%)、旺盛な DX 需要を背景

ショートレポート

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

に業務システムや医療クラウドが好調に推移した。組込み系でも AV 家電関連・IoT 関連機器の受注が堅調で、売上高 2,917 百万円を計上し、前期比 183 百万円、6.7%の増収となった（増収寄与率+116%）。売上高・利益の両面で、Q1 業績の牽引役となったと推測される。

- ・次いで売上高規模が大きいエンタープライズ（売上高構成比 31%）も公共系は横ばいながら、IT インフラ構築・システム更新や金融（銀行系）が好調で、売上高は 2,629 百万円と前期比 112 百万円、4.4%の増収となった（増収寄与率+68%）。
- ・プロダクトの売上高は、前期比 33 百万円、2.0%の微減収となり（増収寄与率△20%）1,637 百万円を計上した（売上高構成比 19%）。セキュリティ関連事業では主力製品は堅調であったが、人手不足などによる工期の延長に伴い微減収となった（Q1 のリカーリング製品売上高は、非開示）。一方、MDM 事業は、サイネージ機能（映像表示）を提供する端末販売や、キッティングサービス（情報機器のセットアップなど）が順調に推移した。

<財務状況>

- ・コアビジネスがキャッシュカウ化し、今期 Q1 末（2024 年 3 月末、以下は同時点の数値）では、約 84 億円の現預金（平均月商の約 3 ヶ月分）を保有している。なお、前期末比（2023 年 12 月末）では約 5 億円減少しているが、主に新オフィス（品川）への移転・統合に伴う差入保証金に充当したものである。また、借入金残高は 1.2 億円（増減なし）と実質的に無借金を継続している。
- ・流動比率は 285.5%、自己資本比率は 67.5%と十分な水準にある。のれんは償却済みであり残高はない。引き続き、良好な財務体質を維持している。

◆ 今期、及び中期の業績見通し～今期業績予想を上方修正～

<今期の通期予想>

【業績予想を上方修正】

- ・同社は、（前期と同様に今期も）Q1 の実績、並びに足元の状況を考慮し、期初に発表した今期の上期、及び通期業績予想を上方修正した。受注が好調で想定を上回る売上高が見込まれ、調達コストや販管費の上昇を吸収し、期初計画を上回る利益を予想している。

【上期予想】

- ・同社は、今上期（2024 年 1～6 月）の業績見通しを、期初予想⇒修正予想の順に、売上高 16,300 百万円（YOY：+2.4%、以下同様）⇒16,500 百万円（YOY：+3.6%）と 200 百万円、0.6%引き上げた。同様に営業利益も 1,070 百万円（同△18.7%）⇒1,220 百万円（同△7.3%）と 150 百万円、14.0%上方修正した（予想営業利益率は、6.6%⇒7.4%）。また、当期利益も 680 百万円（同△10.9%）⇒800 百万円（同+4.8%）と 120 百万円、17.6%引き上げた。
- ・システム需要は堅調で微増収ながら、一桁台後半の営業減益を予想している（P5-図表 8）。積極的な成長投資の実施に伴い、コストが増加することがその主因と思われる。

- ・なお、上期の会社修正計画から Q1 の実績を差し引いた Q2（4～6 月）の計画は、売上高が 7,969 百万円（YOY+5.5%）、営業利益が 115 百万円（同△59.6%）、当期利益が 40 百万円（同△78.1%）と小幅な増収と大幅な減益を予想している。営業利益率は今期 Q1 の 13.0%、前期 Q2 の 3.8%から、今期 Q2 には 1.4%へと大きく低下する想定である。四半期単位での過去の業績の変動性（年間における構成比や利益率）を考慮しても、足元の受注環境や体制、投資状況を勘案すると、今期 Q2 の

業績計画はやや保守的であると推測される。

【図表 8】 今期の第 2 四半期・上期・下期業績の会社予想

(百万円)	2023/12期Q2 (4~6月)実績	2024/12期Q2 (4~6月)会社計画	対前年同期比 増減金額 増減率		2023/12期 前上期実績	2024/12期 今上期・旧計画	2024/12期 今上期・新計画	新計画:対前年 同期比	2023/12期 前下期実績	2024/12期 今下期計画	対前年 同期比	今下期計画- 今上期計画
売上高	7,554	7,969	415	5.5%	15,919	16,300	16,500	3.6%	16,469	17,200	4.4%	700
粗利	1,864				3,870				3,929			
粗利益率	22.0%				24.3%				23.9%			
販売管理費	1,379				2,554				2,510			
販管費率	18.3%				16.0%				15.2%			
営業利益	286	115	-171	-59.9%	1,316	1,070	1,220	-7.3%	1,418	1,250	-11.9%	30
営業利益率	3.8%	1.4%	-2.3%		8.3%	6.6%	7.4%	-0.9%	8.6%	7.3%	-1.3%	-0.1%
経常利益	298	118	-180	-60.5%	1,340	1,100	1,250	-6.7%	1,470	1,300	-11.6%	50
経常利益率	4.0%	1.5%	-2.5%		8.4%	6.7%	6.9%		8.9%	7.6%	-1.4%	0.6%
当期利益	184	40	-144	-78.4%	783	680	800	4.8%	710	820	15.6%	20
当期利益率	2.4%	0.5%	-1.9%		4.8%	4.2%	4.8%		4.3%	4.8%	0.5%	-0.1%

(出所) 決算短信、決算説明会資料に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。

【同社による通期予想】

- 同社は通期の業績を上方修正したが、上期の上方修正金額のみを期初の通期業績予想に上乘せし、期初の下期の業績予想は売上高・利益とも据え置いている。
- 新たな通期の業績予想では、売上高を 33,500 百万円⇒33,700 百万円（期初計画比+200 百万円、+0.6%、以下同様）、営業利益を 2,320 百万円⇒2,470 百万円（+150 百万円、+6.4%）、当期利益を 1,500 百万円⇒1,620 百万円（+120 百万円、+8.0%）に上方修正した（P7-図表 A）。
- なお、過去最高売上高、並びに当期利益を、今期も連続更新する計画である。また、当期利益の上方修正に伴い一株当たりの年間配当金も、42 円（前期と同額）から 46 円に 4 円増額修正した。同社は配当性向 30%以上を目標としているが、32.4%（期初予想では 32.0%）となる見込みである。
- 下期の業績予想（=通期計画-上期計画）は、売上高 17,200 百万円（前年同期比+4.4%、以下同様）、営業利益 1,250 百万円（同△11.9%）、当期利益 820 百万円（同+15.5%）となる。営業利益率は、前上期 8.3%、今上期予想の 7.4%、また、前下期の 8.6%から今下期には 7.3%に低下する計画である。
- なお、通期売上高の新予想における報告セグメント別、並びに事業分野別の売上高は、開示されていない。

【当調査部による通期予想】

- 前回の調査時点（2024 年 4 月 8 日）で、会社の通期の期初予想は保守的であり、若干の上方修正余地があるものの、コストの増加やキャパシティの制約を考慮し、会社計画とほぼ同額を当調査部では予想していた（P7-図表 A）。
- 足元の受注環境は引き続き良好であり Q1 の実績を踏まえると、Q2 以降の同社の利益予想はやや保守的と思われる。下期の利益計画もダウンサイドリスクは小さいと思われるが、コストコントロール（≒成長投資）次第であり、業績の見直しにあたってはリスクを勘案し、主に Q2 の会社計画と予想の差額を中心に、保守的な数値を通期に反映した。
- 当調査部は、通期の業績予想を（前回予想⇒今回予想の順に）、売上高 34,000 百万円（前回予想から変更なし、会社の新予想比：+300 百万円、同率+0.8%）、営業利益 2,350 百万円⇒2,520 百万円（前

回予想からの増減：+170 百万円、+7.2%、会社の新予想比：+50 百万円、+2.0%、以下同順）、当期利益は 1,500 百万円⇒1,650 百万円（同+150 百万円、+10.0%、同+30 百万円、+1.9%）に上方修正した。なお、経費の抑制等により、通期の営業利益は当調査部の修正予想に対し、さらに 50 百万円前後の上方修正（営業利益：2,570 百万円前後）と、これに伴う増配余地もあると当調査部では考えている。

- ・また、同社の目標である配当性向 30%以上に対しては約 32%を想定し、EPS の増額により配当金の予想を前回の 42 円から、今回、46.5 円（同+4.5 円、会社計画比+0.5 円）に引き上げた。

<中期の業績予想>

- ・同社グループは、新たな中期経営計画 2026（2024/12 期～2026/12 期）を掲げ、最終年度（2026/12 期）には、売上高 375 億円（参考：今期会社計画 337 億円比+38 億円、+11.3%）、営業利益 27 億円（同 24.7 億円比+2.3 億円、+9.3%）、営業利益率 7.2%（同 7.3%比△0.1%）の達成を目標としている。新たな成長と目標達成のため、3 ヶ年累計で 37.5 億円を投資する計画である（うち人事戦略 33 億円、IT 戦略 4.5 億円）。

- ・当調査部では過去の業績水準（過去最高の営業利益：2023/12 期 2,734 百万円、同利益率 8.44%）、並びに今期の状況を勘案すると、同社による売上高・利益の目標はいずれも保守的であり、達成の確度は高いと判断している。

- ・また、当調査部では中長期的に、増収増益・増配の基調を予想している。
- ・当面、人的なキャパシティの制約が懸念されるが、好調な受注環境を踏まえ請負単価が堅調に推移すると思われること、顧客による DX を中心とするシステム開発需要は旺盛で業務量が増加傾向にあると考えられること、有望分野の拡大や顧客開拓、プライム案件へのシフト、高付加価値のソリューション事業への展開、リカーリング事業の成長（SDM、ALLIGATE、建設現場用カードリーダー）が見込まれることがその要因である。

- ・なお、今期に加え、来期（2025/12 期）・来々期の予想（2026/12 期）を見直した。前回調査時点と比較すると、両期とも売上高を据え置いたが、営業利益を各 1 億円引き上げ、配当性向を 32%前後と想定し配当金予想も増額修正した（P7-図表 A）。

- ・現行の中計期間内は成長投資を継続して行うことから、過去 7 年間と比較すると業績のモメンタムは低下するが、成長投資が一巡する次期中計期間（2027/12 期以降）には、業績の本格的な回復が期待される。

◆ 株価水準～ポジティブサプライズ：今期業績の上方修正と増配を好感～

<パフォーマンス>

- ・同社の株価は業績の伸長を反映し、直近の約 7 年間では TOPIX を大きくアウトパフォームしている（P8-図表 C）。

- ・2024 年 2 月の決算発表以降、今期を含めた中期の業績の鈍化懸念から TOPIX をアンダーパフォームした。しかし、Q1 決算発表時（同年 4 月 30 日）に今期の業績見通しと配当を上方修正したことから、その後の 2 営業日で株価は約 8%上昇し、TOPIX を 8.6%アウトパフォームしている。

<バリュエーションと今後の株価の見通し>

- ・ 同社が所属する東証プライム市場の全銘柄平均（予想 PER：16.65 倍、実績 PBR：1.43 倍、単純平均予想配当利回り：2.18%）とのバリュエーション比較では、株価の上昇後も同社の PER（9.8 倍：今期会社予想基準、9.6 倍：今期当調査部予想基準）PBR（1.2 倍：Q1 実績より当部が試算）はともに低く、かつ配当利回り（3.3%：今期会社計画）は高い（P8-図表 B）。
- ・ 加えて、PSR（0.47 倍＝時価総額÷今期の会社予想売上高）、EV/EBITDA（2.9 倍：会社予想基準を参考に当調査部が試算）も低位で、主要なバリュエーションには依然として割安感がある。
- ・ 今後、さらなる業績の上方修正や、株主還元の強化策（増配・株式分割・自社株買い・株主優待制度の新設）、豊富な手元資金を活用しシナジー効果が見込める提携・買収等のキャタリストがあれば、株価には一段の上昇余地があると当調査部では考えている。

【9702 アイ・エス・ビー 業種：情報・通信】 図表 A												
決算期		売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	配当金
		(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(円)
2019/12	A	22,520	29.1	1,193	37.4	1,227	33.8	633	15.8	62.02	654.90	19.00
2020/12	A	24,434	8.5	1,644	37.7	1,712	39.5	994	57.0	94.10	772.12	31.50
2021/12	A	26,176	7.1	1,869	13.7	1,940	13.3	1,110	11.6	97.77	841.13	30.00
2022/12	A	28,952	10.6	2,319	24.0	2,401	23.7	1,423	28.3	125.12	938.03	40.00
2023/12	A	32,388	11.9	2,734	17.9	2,810	17.0	1,472	3.4	129.07	1,035.37	42.00
2024/12	新CE	33,700	4.1	2,470	-9.7	2,550	-9.3	1,620	10.0	141.88	-	46.00
2024/12	旧CE	33,500	3.4	2,320	-15.1	2,400	-14.6	1,500	1.9	131.40	-	42.00
2024/12	新E	34,000	5.0	2,520	-7.8	2,600	-7.5	1,650	12.1	144.51	1,137.83	46.50
2024/12	旧E	34,000	5.0	2,350	-14.0	2,400	-14.6	1,500	1.9	131.37	1,035.32	42.00
2025/12	新E	35,500	4.4	2,700	7.1	2,750	5.8	1,700	3.0	148.89	1,240.22	47.50
2025/12	旧E	35,500	4.4	2,500	6.4	2,550	6.3	1,550	3.3	135.75	1,218.45	43.00
2026/12	CE	37,500	-	2,700	-	-	-	-	-	-	-	-
2026/12	新E	37,500	5.6	2,800	3.7	2,850	3.6	1,730	1.8	151.52	1,344.24	48.50
2026/12	旧E	37,500	5.6	2,700	8.0	2,750	7.8	1,670	7.7	146.26	1,321.71	45.00
2023/3	Q1 A	8,366	18.6	1,030	48.0	1,042	49.5	579	30.3	50.93	949.80	0.0
2024/3	Q1 A	8,531	2.0	1,105	7.3	1,132	8.6	760	31.1	66.59	1,070.27	0.0
2023/6	Q2 A	7,553	6.1	285	-30.7	298	-31.7	183	-26.5	16.01	972.25	0.0
2024/6	Q2 新CE	7,969	5.5	115	-59.6	118	-60.4	40	-78.1	4.11	-	0.0
2023/6	H1 A	15,919	12.3	1,315	18.9	1,340	183.0	762	9.9	66.94	972.25	0.0
2024/6	H1 新CE	16,500	3.6	1,220	-7.3	1,250	-6.7	800	4.8	70.70	-	0.0
2024/6	H1 旧CE	16,300	2.4	1,070	-18.7	1,100	-17.9	680	-10.9	59.60	-	0.0
2023/12	H2	16,469	11.4	1,419	17.0	1,470	15.9	710	-2.6	62.13	1,035.37	42.0
2024/12	H2CE	17,200	4.4	1,250	-11.9	1,300	-11.6	820	15.5	71.18	-	46.0

(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) A:実績、CE:会社予想、E:アルファ・ウイン調査部予想。旧:前回(期初)予想、新:今回(修正)予想。

Q1:1~3月決算、Q2:4~6月決算、H1=上期:1~6月決算、H2=下期:7~12月決算。

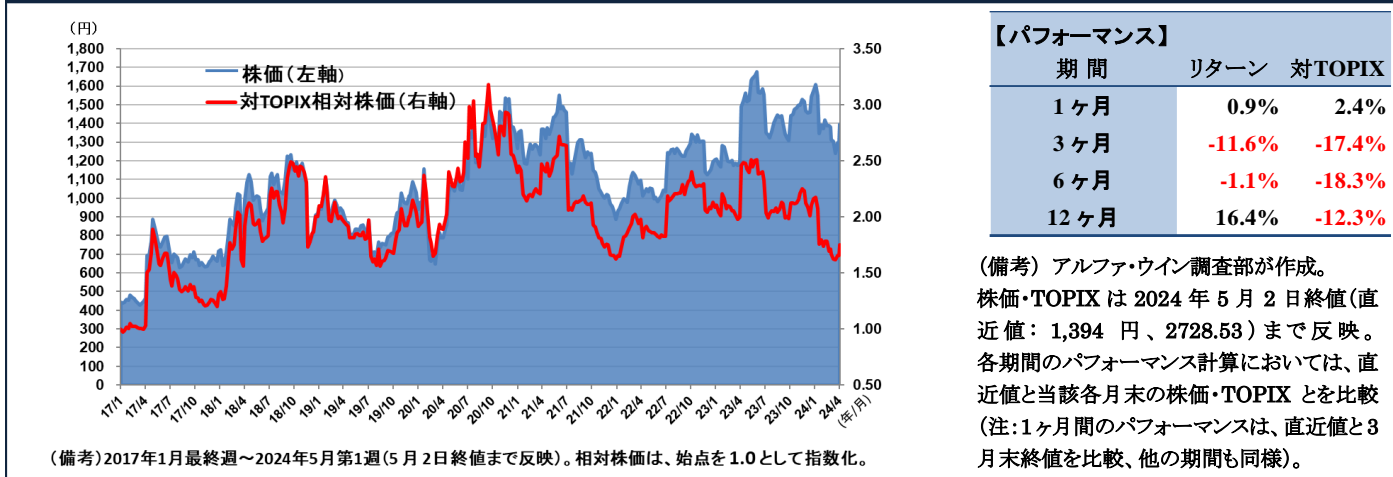
【 株価・バリュエーション指標：9702 アイ・エス・ビー 】 図表B

項目	2024/5/2	項目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株価 (円)	1,394	前期実績	10.8	1.3	3.0%	32.0%
発行済株式数 (千株)	11,418	今期予想	9.6	1.2	3.3%	32.2%
時価総額 (百万円)	15,917	来期予想	9.4	1.1	3.4%	31.9%
潜在株式数 (千株)	0	来々期予想	9.2	1.0	3.5%	32.0%
今期Q1末・自己資本比率	65.7%	前期純資産配当率 (DOE)		4.1%	前期ROE	13.1%

(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

(備考) 予想:アルファ・ウイン調査部による予想

【 株価チャート (週末値) 9702 アイ・エス・ビー 】 図表C



(出所) アルファ・ウイン調査部が作成。

ディスクレーマー

アルファ・ウイン企業調査レポート (以下、本レポート) は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社 (以下、弊社) が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。(更新された) 最新のレポートは、弊社のホームページ (<https://www.awincap.com/>) にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.com】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務を負いません。SV2024-0510-2200